

## 令和5年神奈川県議会第3回定例会 産業振興・環境対策特別委員会

令和5年11月16日

### ○おだ幸子委員

公明党のおだ幸子でございます。改めて、よろしくお願いいいたします。私は、委員会資料29ページの最後にございますベンチャー限定クラウドファンディング「かなエール」についてお伺いいたします。

御存じの方も多いかと思いますが、クラウドファンディングというのは、企業や個人が、サービスや商品の趣旨、かける思いを明らかにして、それに賛同した不特定多数の方から実現のための資金を集める方法です。先日も国立科学博物館が、標本・資料の収集・保管のためにクラウドファンディングを実施して、国内過去最高額の9億円を超える資金を調達したという報道が話題になりました。

ベンチャー企業の持続的な成長のためには、資金調達は大変重要な課題でございますので、実効性のあるベンチャー支援という観点から、何点かお伺いいたします。

まず、ベンチャー企業の資金調達について、一般的にはどのような方法があるのかお伺いいたします。

### ○ベンチャー支援担当課長

ベンチャー企業の資金調達方法は、ベンチャー企業の成長段階に応じて異なってございます。

まず、ベンチャー企業が、研究開発やビジネスの事業化の段階にある場合には、個人投資家やベンチャーキャピタル、投資会社や投資ファンドといったところになりますが、こうしたところからの投資、また、政府や自治体などの公的機関からの助成金、こういったものが主な方法となってございます。

次に、ビジネスを開始し、事業が軌道に乗ってきますと、機関投資家による投資や銀行からの融資、こういったものが受けられるようになってきます。さらに、事業拡大期に入りますと、株式公開、上場して、さらに大きく資金を調達するといった方法もございます。

### ○おだ幸子委員

今、御答弁にありました様々な資金調達の方法がある中で、県では令和2年からクラウドファンディング「かなエール」を始めていらっしゃいますが、かなエールの仕組みや特徴、成果についてお伺いします。

### ○ベンチャー支援担当課長

まず、かなエールの仕組みと特徴でございますが、本県のベンチャー支援の取組に賛同いただいた3社のクラウドファンディング会社の協力を得まして、ゼロ予算で事業を運営してございます。クラウドファンディング会社は、県内のベンチャー企業が、かなエールを通じてクラウドファンディングを行う場合、無料の事前相談を実施したり、掲載手数料を割引するなどといった支援を行つてございます。

成果といったしましては、令和2年に開始し現在に至るまで、22件のプロジェクトを支援し、10件が目標額を達成してございます。また、調達額は、合計で

1,700万円を超える金額となってございます。

○おだ幸子委員

私自身も、過去に中小企業様のクラウドファンディングを立ち上げから御支援したことがあるんですが、その際に利用した大手の運営会社から、十分な指導ですとか支援を得られなかつたなというふうに感じました。正直、件数が多くて手が回っていないなという印象でございました。

クラウドファンディングは、そのプロジェクトを通してサービスや商品を磨き上げて、次につなげるという効果もございます。ただし、そのためには、事業者さんに寄り添った伴走支援が必要かと考えますが、県ではクラウドファンディングを利用するベンチャー企業に対して、どのような支援をなさっているんでしょうか。

○ベンチャー支援担当課長

まず、ベンチャー企業と運営会社、県の3者で、クラウドファンディング募集ホームページの体裁や掲載内容等につきまして綿密に打合せを行い、効果的なものになるようにしてございます。また、募集の際には、県で記者発表を行ったり、県の公式X、旧ツイッターですね、こうしたSNSで発信をするなど、広報面での後押しもしてございます。

募集を開始した後も継続して周知を図りますとともに、県が応援しているプロジェクトに対しては、かなエールのロゴ、このロゴはメガホンをモチーフにしたデザインとなってございますが、このロゴをベンチャー企業の製品説明資料やクラウドファンディングのサイトに掲載し、信用力の向上に努めるようにしてございます。

○おだ幸子委員

県のホームページを見ますと、現在、購入型と言われるE N j i N Eですか

CAMP F I R E、また、株式投資型のF U N D I N N Oというサービスを使っていらっしゃるようですが、クラウドファンディングを調べますと、運営する会社というのは本当にたくさんあって、新しい会社も次々現れてきています。また、特徴ですか支援体制も様々で、非常に手厚く支援してくださる会社もいらっしゃいます。

現在の達成状況を見ますと、まだまだ不十分だと私は感じているんですが、実効性のある支援のために、新たなクラウドファンディングの運営会社の導入なども考えられますが、県として今後、かなエールをどのように活用していくこうとされているんでしょうか。

○ベンチャー支援担当課長

ベンチャー企業のクラウドファンディングによる資金調達は、特に起業初期の段階で、テストマーケティング、試験販売でございますが、こういったことによりまして、ニーズの有無や市場への受入れ可能性等の確認もできる有効な仕組みであると考えてございます。現在は3社と取組を進めておりますが、今後もベンチャー企業に対するさらなる後押しが見込めるようであれば、新たなクラウドファンディング事業者との連携について検討してまいります。

また、かなエールの取組につきましては、引き続き、S H I N みなどみらい

をはじめ県内の企業支援拠点で開催されるイベントや市町村、経済団体等にも紹介するなど、かなエールの認知度向上を図り、さらなる活用を目指してまいります。

○おだ幸子委員

県のホームページの、かなエールのページを拝見しますと、数年前にプロジェクトが終了していて、かつ、全てのプロジェクトが目標達成をしていないE N j i N Eのサイトが最初に出てくるんですね。かなエールに興味を持って見ても、ちょっとがっかりしてしまうというか、もう少し見る方の意欲を湧き立たせるような伝え方が必要ではないかなと考えます。

それでは、要望を申し上げます。かなエールに限らず、今後、県として、ベンチャー支援を積極的かつ効果的に周知いただくとともに、仕組みをつくって終わりではなく、結果がどうだったのか、なぜうまくいかないのか、改善するにはどうしたらいいのか、効果検証をきちんとしていただいて、県経済の活性化に向けて、ベンチャー企業の創出・育成にしっかりと取り組んでいただくことを要望いたします。以上です。